



文化庁
メディア芸術祭
JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

Media Narrative

メディアアーツフェスティバル



文化庁 メディア芸術祭 小樽展

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰すると共に、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。今回、これまでの受賞作品を中心に展示・上映する文化庁メディア芸術祭地方展を、物語を生み出し続ける風情ある街、小樽で開催します。

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL in OTARU

開催期間

2020年 1/11(土) ▶ 1/26(日)

入場無料

対話でうまれる物語

ものがたりのまち小樽を舞台にメディア芸術のナラティブが展開

アートとサイエンスが
織りなす作品を展示

アート

運河プラザ三番庫

11:00~18:00 (会期中無休)

※夜間作品公開日は20:00まで
(開催日は公式サイト・SNSでお知らせ)

『百年海図巻 アニメーションのジオラマ』

チームラボ ©TeamLab



マンガ

第21回・第22回マンガ部門
受賞・入選作品を展示

市立小樽文学館

9:30~17:00(入場は~16:30)

※1/14(火), 15(水), 20(月)休館

【特別企画】小樽の街を舞台にしたマンガ(瀧波ユカリ)と
詩(三角みづ紀)によるナラティブな作品を会期中公開制作・展示



『漫画×詩 Narrative Live』プロジェクトイメージ ©瀧波ユカリ

長編アニメーション

小樽市民センター・
マリノホール

観賞には上映入場整理券(無料)が必要となります。
整理券は、開催期間中、小樽市産業会館内の
本展インフォメーションで配布します。

●1/24(金)『花とアリス殺人事件』岩井俊二
19:00~

●1/25(土)『おおかみこどもの雨と雪』細田守
12:00~

●1/25(土)『君の名は。』新海誠
15:00~



『おおかみこどもの雨と雪』

©2012「おおかみこどもの雨と雪」製作委員会



『SNOW MIKU』(初音ミク)
クリプトン・フューチャー・メディア
Art by KEI © CFM

小樽市産業会館
11:00~18:00 (会期中無休)

メディア芸術から広がる今を体感

アート・エンターテインメント
アニメーション



『Rez Infinite』水口哲也 ©SEGA ©ENHANCE

展示・上映作品、イベント情報を公式ホームページ・SNSで発信!

<https://otaru2019.j-mediaarts.jp/>

Twitter: @otaru202001

Facebook: otaru202001

メディア芸術祭小樽展



小樽市内の中心部、 街の歴史を物語る4会場でアートを展開



日本の近代化とともに発展を続けてきた小樽。時代の折々に生まれ、活躍してきた建物を会場に、展示や上映、様々な企画を展開します。

EVENT

ナラティブってなに？

会期中、さまざまなナラティブが広がるイベントを開催(全て無料)
多様なメディア芸術の世界と可能性を実感できるプログラム

1/11 (土) 17:00～トーク

小樽市産業会館会場
「ナラティブラウンジ」

「水口哲也とメディアナラティブ：初日編」

ネットワークで世界がコミュニケーションする時代、最先端のエンターテインメントをつくるにはナラティブなものではないといわれています。小樽出身で、まさにVR(仮想現実感)やMR(複合現実感)のエンターテインメントで世界をリードしている水口哲也と一緒にメディアナラティブを解き明かしていきましょう。

話し手 水口哲也(文化庁メディア芸術祭小樽展エグゼクティブアドバイザー)

会期中、水口エグゼクティブアドバイザーによるトークは後半にも開催します。
詳しい内容は、公式ホームページ・SNSをチェック！

1/13 (月・祝) 15:30～シンポジウム

小樽市民センター・
マリンホール

「ナラティブシティ・創造都市小樽の可能性」

地域の魅力を文化を通じて磨くことにより、持続的成長を実現する「創造都市」の動きが世界の様々な場所に新たな豊かさをもたらしています。物語を多く生み出してきたナラティブ溢れる小樽そして北後志には、そのチャンスがあります。その「創造都市」の可能性を世界で活躍するリーダーでかつ小樽に思い入れのある話し手とともに語り合います。

話し手 佐々木雅幸(創造都市ネットワーク日本顧問、文化庁地域文化創生本部主任研究官)
山重徹夫(クリエイティブディレクター、「中之条ビエンナーレ」総合ディレクター)
迫俊哉(小樽市長)
福島慶介(デザイナー・文化庁メディア芸術祭小樽展シンボルグラフィック制作・N合同会社)
岡田智博(文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター)

主催：文化庁

共催：小樽市・小樽市教育委員会・小樽商工会議所・小樽観光協会

特別協力：北海道旅客鉄道株式会社小樽駅

北海道中央バス株式会社・株式会社プリズム

企画・運営：クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

エグゼクティブアドバイザー：水口哲也

ディレクター：岡田智博



お問い合わせ

文化庁メディア芸術祭小樽展 小樽事務局

☎ 050-5374-2627 ✉ otaru@creativecluster.jp

1/12 (日) 17:00～トーク

小樽市産業会館会場
「ナラティブラウンジ」

「まきむう、長谷川愛とメディアナラティブ」

多様な生き方をテーマにナラティブな活動で知られるまきむう(牧村朝子)と、人間と科学との間を行き来するアートで世界が注目する長谷川愛が、今、これからの「メディアナラティブ」をテーマに話します。

話し手 長谷川愛(第19回アート部門優秀賞
『(不)可能な子供、01:朝子とモリガの場合』)

牧村朝子(タレント、文筆家)

聞き手 岡田智博(文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター)



1/19 (日) 18:00～トーク

小樽市産業会館会場
「ナラティブラウンジ」

「ユカリそれからみづ紀のナラティブ」

漫画と詩で多くのファンをつかんでいるふたりが、期間中に小樽で滞在制作を行います。そこで生まれたナラティブ(物語)についてお話しします。

話し手 瀧波ユカリ(マンガ家)

第12回マンガ部門審査委員推薦作品『臨死!!江古田ちゃん』、『モトカレマニア』ほか

三角みづ紀(詩人)

第10回中原中也賞『オウバアキル』、第22回萩原朔太郎賞受賞『隣人のいない部屋』ほか

聞き手 玉川薫(市立小樽文学館館長)

【特別企画】公開制作と成果展示「漫画×詩 Narrative Live」

本展のスタートより、瀧波ユカリと三角みづ紀が小樽でおとまり滞在、ふたりがナラティブする公開制作を開催します。制作の成果は、会場のアトリエとなった空間で会期中展示します。漫画=瀧波ユカリ・詩=三角みづ紀

制作期間 1/12(日)～14(火)
※1/12(日)、13(月)は制作風景を公開しています。

成果展示 1/16(木)～
※1/14(火)、15(水)、20(月)は会場休館日です。



会場：市立小樽文学館

専門家によるメディア芸術の解説 1/17(金)、1/18(土)、1/23(木) 16:00～

本展ディレクターが、会場を巡りながら作品解説を行ないます。
講師：岡田智博(文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター)

小樽市産業会館
会場集合